

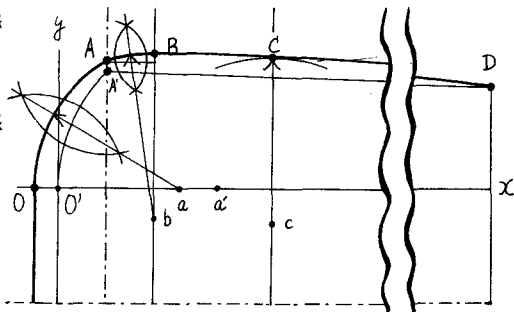
C-17 長着のえり付け線について (えり肩明, 衤下りの作図法)

すみれ女短大

阪本 弘子

目的 被服構成学の和裁縫製指導にあたり、難点とされているのはえり付け線である。えり肩明とそれに続く衤下りまでの製図については、従来学生には適当に寸法を与えてフリーハンドで描かせていたが、これには個人差があつて、理想的な線を得るには熟練を要した。そこで初心者でも正しい製図ができる方法を研究した。

方法 (1) えり肩明の形は背中心より直線部分を $\frac{1}{3}$, $\frac{1}{2}$, $\frac{2}{3}$, 繰り越し寸法, 2.0, 2.5, 3.0 cm とした。衤下りの線は、肩山から2点を指定し、ゆるい曲線で構成した。えり付け線に5点を指定しコンパスと定規のみを使用し円弧と接線で折れ曲りのないスムーズな線を画く方法を試みた。(2) 指定点 O, A, B, C, D, を円弧と接線で結ぶには中心が X 軸上にあり、点 O, A, を通る円弧、中心が点 B, を通る無線上にあり、点 A, B, を通り且つ点 B, で水平となる円弧、中心が点 C, の無線上にあり、点 C, で水平となる円弧、b, と円を結ぶ接線、点 D, を通る C, 内の接線より構成される。



結果 製図法が簡単で、理想的な美しい形ができました。えり肩明から衤下りまでの線もきれいに続いて好結果が得られた。寸法を違えてもこの方法が使えるので、応用、利用範囲が広く、普遍妥当性があり、コンスタントに製図が可能という魅力がある。